



悪夢の内臓感覚が今、恐怖の限界を越えた

しのびよるブルードの影
魂を震撼させる
クローネンバーグ幻の最高傑作

ザ・ブルード

The Brood

監督——デイヴィッド・クローネンバーグ
主演——オリヴァー・リード/サマンサ・エグガー
カナダ映画/1979年 カラー/91分
配給——ケイブルホーク/提供——コムストック

怒りのメタファー

解説

物語

フランク(アート・ヒンドル)は、精神疾患の治療のため入院中の妻ノラ(サマンサ・エッガー)のことで悩んでいた。彼女の主治医ラグラン(オリヴァー・リード)が、フランクをノラに会わせようとししないのだ。もしかしたら、彼の治療研究のモルモットにされているのではないかと。一方、5歳になるフランクの娘は、週に一度ノラとの面会が許されていた。ところがある日、フランクは娘の背に原因不明の赤いアザができていないことに気付く。病院内で、何かとんでもないことが行われているにちがいない。フランクの疑念が強まる。数日後、ノラの実母が何ものかによってメッタ打ちにされ、無残な死をとげた……。

「ザ・ブルード〜怒りのメタファー」は、「ザ・フライ」(’86)の大ヒットで世界的に脚光をあびるカナダの監督デイヴィッド・クローネンバーグの1979年製作作品。その今日的なテーマ性と鋭い社会洞察力、漸新でオリジナルな映像表現により、ファンの間で熱狂的支持を受けて続けている幻の最高傑作である。

ヒロイン、ノラの内に潜む強度の不安と怒りが生み出した不気味な生き物=Brood(ひな)。それは、ノラの欲求の代行者として、彼女が憎む人々を次々と惨殺していく……。現代社会の深層に渦巻く不安や恐怖、怨念を奇形、傷、腫れ物といった肉体的異常に置き換えて視覚映像化。内臓感覚派といわれるクローネンバーグが、現代人の深層心理に切迫、真の恐怖に満ちた新しいサイコ・ホラー映画を出現させた。

イギリスの名優オリヴァー・リードとサマンサ・エッガーが、円熟した演技で画面をひきしめ恐怖感をもりたてる。とりわけ、子供の姿かたちをした狂暴極まりないBroodの描写が鮮烈で、それを見た観客はきつと背筋の凍るような思いを経験することだろう。



スタッフ

製作総指揮—ビエール・デイヴィッド
ヴィクター・ソルニッキ
製作—クロード・ヘロー
監督・脚本—デイヴィッド・クローネンバーグ
撮影—マーク・アーウィン
編集—アラン・コリンズ
音楽—ブライアン・テイ

キャスト

オリヴァー・リード—ラグラン博士
サマンサ・エッガー—ノラ
アート・ヒンドル—フランク
シンディ・ハインズ—キャンディ

1979年/カナダ映画/カラー/91分
ミュージアム・プロダクションズ/エルジン・
インターナショナル製作
配給/株ケイブルホグ
提供/株コムストック

クローネンバーグ監督は語る

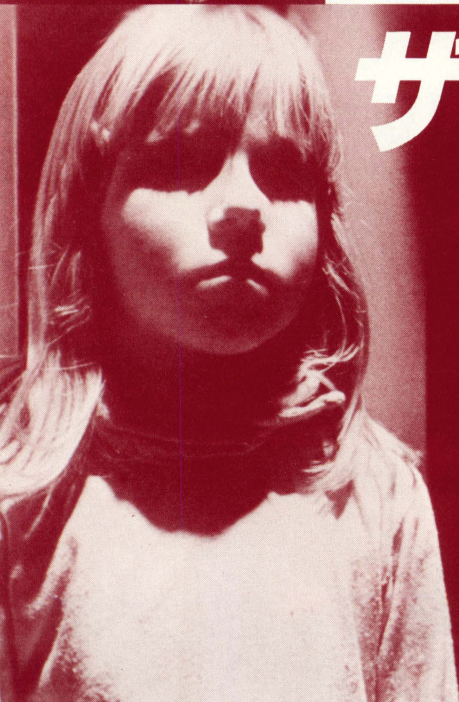
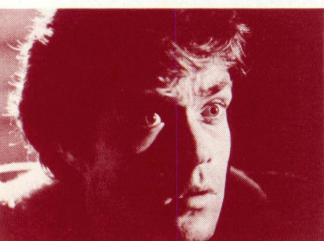
「ホラー映画にはカタルシス作用がある。それは、現実逃避ではない。むしろ、現実の中に潜む不安や恐怖、そして人間の持つ妄執を観客につきつけるフィクションなのだ」

「肉体こそ、恐怖の中心を成すものだ。人間は、恐怖の中にある『本能的な何か』から逃げ出すことはできない。肉体の認識、そして死の認識こそ、ホラーの源泉なのだ」

「The Shap of RAGE(怒りの形)」1983 Academy of Canadian Cinema 刊より抜粋。

ザ・ブルード

怒りのメタファー



6月上旬
ロードショー

伊勢丹斜め向い丸井メンズ館先

新宿東映ホール1

☎(351)3022

特別鑑賞券発売中!

一般1200円(当日1500円の処)
学生1100円(当日1300円の処)

■時間

連日 11:40 1:30 3:20 5:10 7:00